



今回の回答担当は…

サンアグロ株式会社
やまひら たかふみ
山平 貴史 さんです。

Q 葉面散布剤の使い方について教えてください

A

葉面散布とは、肥料成分を植物に吸収させるため、液状にした肥料を葉面に散布することを行います。通常、作物に必要な無機成分は、土壌中に肥料として施され、根から吸収・利用されますが、植物は根ばかりでなく葉からも養分を吸収できるので、果樹や花きのように、色の商品性を重んじるものや、葉の大きな野菜などで生育の補助的な手段として葉面散布が行われます。

こうなる前に葉面散布



↑低温障害を受けたトマトの葉。



↑キュウリの曲がり果。

病虫害・生理障害で株の枯死や減収してしまう前に、葉面散布で回復を図りましょう。できるだけ早期の散布が肝心です。

例えば、こんな時に葉面散布



↑葉菜類の結球促進に。



↑果菜類の良品増収に。



↑土壌施肥が難しい作物に。



↑マルチ栽培時の施肥に。



↑健苗育成のサポートに。

こんな時に葉面散布

- ① 根からの養分吸収機能が低下し、土壌から養分を十分吸収できない時
湿害などにより根腐れを起こした場合や、根圏の温度が著しく低下した場合など、何らかの原因で根が障害を受けた場合に使います。
- ② 土壌に肥料を与えにくい場合
スイカなど、つるが地面を覆う作物では土壌に追肥するのが難しく、マルチ栽培でも追肥は困難ですが、葉面散布であれば簡単に施肥することができます。
- ③ 作物の栄養状態を急速に回復したい時
寒害や風水害などの気象的障害が原因の生育不良で、早期の対策として大きな効果を発揮します。
- ④ 品質向上のために
円滑な光合成作用の維持・促進や、貯蔵養分の増加・促進のため使用します。果樹類などは着色促進、糖度の増加などの品質向上を目的に葉面散布します。

使用時の注意点

葉面散布は、朝露のない午前中と夕方に行います。葉面散布の最適温度は15〜25℃くらいであり、気温の高い時は使用を控えます。雨の日や風の強い時には、葉面散布の効果が発揮できないので使用は控えてください。農薬との混用は、各製品の使用方法に準じてください。なお、気孔の多い葉の裏側に散布するのが効果的です。葉面散布は速効性を発揮するため、追肥として非常に有効な施肥方法です。各製品の使用方法を守り、適切に使用してください。